

(平成二十五年六月某日)

橋下舌禍事件なるものあり。その一は曾ての、ほぼ若き男性兵士のみの構成せる軍隊には、かの「慰安所」の如き性的欲望を發散せしむる施設は不可缺たりしなるべしとの、至極常識的なる論にて、何ゆゑにこの橋下發言が問題視せらるるや、理解に苦しむ次第なり。しかしながら橋下發言のその二として傳ふるは、同人がフリン在日アメリカ軍司令官に對し、日本の風俗産業の活用を勸奨せることなりき。こは橋下がやくざ家庭の出生なるを考合はすれば、眞つ當ならざる家庭の出生の故にかかる非常識なる發言を口にせるかと、我些かの違和感を禁じ得ず。

されど最近ダイヤモンド誌を讀みて、そは我が誤解にして、今の日本の報道の偏向に據ると氣附きぬ。同誌記事によれば橋下のフリン司令官と會談せるは、在日アメリカ軍兵士の日本國民、特に日本人婦女子に對する不祥事の跡を斷たざるに抗議し、綱紀肅正を求め、同司令官より謝罪ないし綱紀肅正の約束、或いは不祥事防止の具體策を聞き出すためなるらし。ダイヤモンド誌は横須賀基地の存する神奈川県に於て、アメリカ軍による性犯罪等の犯罪行爲、こ二年間に二十件を下らずと記すも、その多くは日本の新聞等の報道せざりしか、報道せるもごく小さき扱ひなりしかによるべく、少くも我ら一般日本人の常識にはあらず。されど地方公共團體の長たる橋下の、そを住民の福祉を守る重要分野の一なりと判斷、おのが黨の議員らを引連れて在日アメリカ軍司令官と會談し、アメリカ軍兵士の非行問題の深刻さを提起して、そを新聞紙上に報ぜしめんとしたるは、地方公共團體の長としての著眼點、さすがに非凡なるものあり。

されどアメリカ軍司令官フリン、これ亦さすがに軍に長年奉職せる海千山千の古狸にして、斯かる抗議はまじめに取上げず、門前拂ひするが得策なりと肚を決めたるが如し。日本政界では賣出し中の少壯政治家なりと雖も、いづくんぞアメリカ古狸に對抗し得可き。フリンは橋下らの申入れを唯聽きたるのみにして、アメリカ軍はフィットネスとジョギングに勵むなりと應酬す。橋下直ちに抗議は司令官の眞劍に聞入るる所とならず、自らは古狸より適當にあしらはれたるに氣附けるに非ずや。かの發言、「日本には風俗産業なるものあり、アメリカ軍そを大いに活用せんことを勸む」は、抗議を無視せられたるを自覺せる橋下の、鼬の最後つ屁的捨てぜりふなりしと覺ゆ。但し竝の日本人なれば、アメリカ人に體よくあしらはるるもそを自覺せず、フリンの言の如き通り一遍の説明を肯察し、しほしほと引下がるが常ならずや。アメリカ人の言に納得せず心裡に不満を感じるすら稀ならむ。況んや鼬の最後つ屁をひるをや。

橋下フリンに對抗し得ざりしを自覺するも、最後の捨てぜりふを浴びせたるには些かの自信ありしならむ。さればこそ新聞記者會見にて自らそを語り出でたれど、そは些かの勇み足なりけらし。記者會見に出席せる記者ら、多くアメリカ・コンプレックス強き竝の日本人にして、日本人がアメリカ軍司令官に抗議すること自體思案の外なりしに非ずや。沖繩の地を除く日本のジャーナリズムにとり、長年アメリカ軍兵士の非行は視れども見えず、聽

けども聞えざる事實なれば、橋下のアメリカ軍司令官に何を抗議せるやを理解せざりし記者多かりしならむ。橋下に遠く及ばざる一般の記者らが理解力と日本のジャーナリズム特有の附和雷同性に因りて、橋下が日本の風俗産業の活用をアメリカ軍に勸奨せりとの記事のみ、各報道機關一齊に報道せるならむ。

我が國にて雑誌ジャーナリズムの新聞、テレビ等に優るは、古く田中角榮の金權汚職報道より變らざれば、ダイヤモンド誌の記事、ほぼ事實なりと思はる。さすればこの折りの橋下舌禍事件の主要點は、橋下のフリン司令官と會談せる、在日アメリカ軍兵士の日本人婦女子等の日本國民に對する不祥事に抗議し、綱紀肅正を求むるが目的なりしことにして、餘は瑣末なり。然れども現下の「やまと」の新聞、テレビ等は、曾てのアメリカ軍占領期より引續き、アメリカ軍兵士による不祥事はあるべからざることにして、大きく報道する能はず。それを報道せば、天より霹靂襲ひ來る歟。橋下の抗議は無視せられ、捨てぜりふの皮肉のみ報道せらるる所以なるべし。日本敗戦後の占領期の言論抑壓、六十年以上を経たる今日も尚絶大なる威力を日本の言論界に振ふに、ただただ驚嘆する耳。